

平成 28 年 12 月 22 日

財 政 援 助 団 体 等 監 査 結 果 報 告

〔一般社団法人 神戸市老人クラブ連合会 〕

神戸市監査委員	谷	口	時	寛
同	吉	田	基	毅
同	岩	田	嘉	晃
同	橋	本		健

地方自治法第 199 条第 7 項の規定に基づき実施した平成 28 年度財政援助団体等監査について、同条第 9 項の規定によりその結果に関する報告を次のとおり決定した。

1 監 査 の 対 象

一般社団法人神戸市老人クラブ連合会（以下「市老連」という。）における神戸市（以下「本市」という。）からの財政援助に係る出納その他の事務で、主として平成 27 年度執行の事務

2 監 査 の 期 間

平成 28 年 8 月 29 日～平成 28 年 12 月 22 日

3 監 査 の 方 法

監査は、財政援助に係る出納その他の事務が法令等に基づき適正に行われているかについて、関係書類の調査とともに、関係職員に対する質問等の方法により実施した。

4 団 体 の 概 要

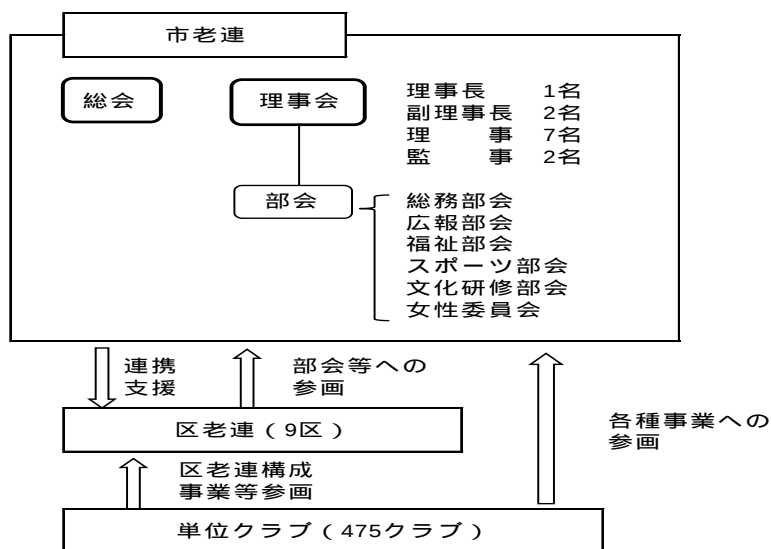
(1) 設立の趣旨

市老連は、おおむね 60 歳以上の方を対象とした地域を基盤とする老人クラブを基礎組織として、神戸市内 9 区に「区老人クラブ連合会」（以下「区老連」という。）を組織し、それらを統括する組織として昭和 33 年 8 月に任意団体として組織され、同 45 年 9 月に「社団法人神戸市老人クラ

ブ連合会」として法人認可を受けた。その後，平成 24 年 4 月に一般社団法人へと移行している。

なお，平成 28 年 4 月現在の単位老人クラブ数は 475 クラブ，会員数は 35,841 人である。

(参 考) 組織概要



(2) 本市との関係

財政援助

ア 補助金

平成 27 年度は，神戸市老人クラブ連合会補助金として 2,152 万円，高齢者相互支援友愛活動補助金として 1,665 万円（当初交付決定額 1,639 万円から 1,679 万円へ変更後，補助金返還金 14 万円を控除した額），神戸市老人クラブモデル活動事業補助金として 383 万円を交付している。

(事業名)	(金額)	(根拠規程)
神戸市老人クラブ連合会補助金 (主な事業)	2,152万円	神戸市老人クラブ連合会補助金交付要綱
・神戸市老人クラブ連合会運営		神戸市高齢者健康増進・健康づくり事業実施要領
・老人クラブ健康づくり		(神戸市老連健康増進事業等助成要綱)
・区老人クラブ連合会事業推進		(神戸市老連運営助成要綱)
高齢者相互支援友愛活動事業補助金	1,665万円	神戸市老人クラブ連合会補助金交付要綱 神戸市高齢者相互支援友愛活動事業実施要綱 (高齢者相互支援友愛活動事業実施要領)
神戸市老人クラブモデル活動事業補助金	383万円	神戸市老人クラブモデル活動事業実施要領

() 書きは市老連が区老連への助成に関して定めた要綱

(3) 事業の概要

市老連事務局の所在地は、中央区橘通 3 丁目 4 番 1 号(神戸市立総合福祉センター内)である。
市老連の事業の概要は以下のとおりである。

会員増強対策事業

神戸市老人クラブ「五千人会員増強運動」要領及び会員増強対策 6 つの目標に基づき会員増強対策事業を推進した。

健康増進事業（健康づくり）

ゲートボール大会，グラウンドゴルフ大会，輪投げ大会，ウォークラリー，体力測定，栄養講習，リズム体操や健康づくり研修会などを実施した。

友愛・奉仕活動事業

高齢者相互支援友愛活動事業実施要領及びシルバーフレンド訪問事業実施要領に基づき，会員相互支援のためのボランティア活動を区単位で実施する友愛・奉仕活動事業を推進した。

文化研修事業

高齢者美術作品展，演芸の集い，会長・リーダー研修会，新任会長研修会などを実施した。

福祉事業

社会奉仕活動事業，福祉研修事業等を実施した。

広報事業（会員への情報提供）

月刊「神戸老連」の発行や，ホームページによる広報事業を実施した。

単位クラブ等支援事業

モデル活動事業及び区労連の運営やスポーツ活動への助成を実施した。

地域を支える支援活動

地域見守り活動を含む次世代育成支援事業などに取り組んだ。

老人クラブ加入への促進

老人クラブの解散などによる会員の減少を防止するとともに，地域の高齢者に対する老人クラブの活動紹介や加入の勧誘を行うとともに，魅力あるクラブづくりに努めた。

市老連の主な業務量の比較は第 1 表のとおりである。

第 1 表 業 務 量 の 比 較

項 目		平成27年度	平成26年度	対前年度 増 減	対前年度 増 減 率
健 康 増 進 事 業					
各種スポーツ大会					
春季ゲートボール大会	参 加 者 数	276人	304人	28人	9.2
秋季ゲートボール大会	参 加 者 数	267人	284人	17人	6.0
春季グラウンドゴルフ大会	参 加 者 数	222人	225人	3人	1.3
秋季グラウンドゴルフ大会	参 加 者 数	264人	257人	7人	2.7
長寿祭ウォークラリー大会	参 加 者 数	532人	427人	105人	24.6
輪投げ大会	参 加 者 数	576人	559人	17人	3.0
神戸交流ウォーキング大会	参 加 者 数	555人	754人	199人	26.4
友 愛 ・ 奉 仕 活 動 事 業					
会員相互支援事業					
友愛・奉仕事業推進チーム会議	開 催 回 数	6回	6回	-	-
友愛・奉仕事業推進ボランティア	登 録 者 数	1,232人	1,271人	39人	3.1
高齢者相互支援友愛活動事業	派 遣 件 数	400件	408件	8件	2.0
文 化 研 修 事 業					
会長・リーダー研修会	参 加 者 数	769人	730人	39人	5.3
新任会長研修会	参 加 者 数	70人	70人	-	-
高齢者美術作品展（長寿祭）の開催	来 場 者 数	816人	764人	52人	6.8
福 祉 社 事 業					
社会奉仕活動（「社会奉仕の日」一斉奉仕活動）	参 加 者 数	8,954人	8,878人	76人	0.9
福祉交流事業	参 加 者 数	94人	90人	4人	4.4
福祉研修会	参 加 者 数	780人	742人	38人	5.1
広 報 事 業					
「神戸老連」の発行	発 行 部 数	564,000部	574,800部	10,800部	1.9
単 位 ク ラ ブ 等 支 援 事 業					
モデル活動事業に対する助成	実 施 件 数	25件	25件	-	-

(4) 収支状況

市老連の収支状況は第2表のとおりである。

第 2 表 比 較 正 味 財 産 増 減 計 算 書

(単位 金額：千円)

科 目	平 成 27 年 度	平 成 26 年 度	対 前 年 度	対 前 年 度
	金 額	金 額	増 減	増 減 率
一 般 正 味 財 産 増 減 の 部				
【 経 常 増 減 の 部 】				
(1) 経 常 収 益 (a)	55,464	64,412	8,948	13.9
特 定 資 産 運 用 益	3	3	0	3.3
受 取 会 費	6,580	6,534	45	0.7
事 業 収 益	6,149	13,955	7,805	55.9
参 加 費 事 業 収 益	2,582	7,842	5,260	67.1
広 告 料 収 益	3,567	6,112	2,545	41.6
受 取 補 助 金 等	42,260	43,127	867	2.0
(うち神戸市補助金)	42,010	43,077	1,067	2.5
受 取 寄 附 金	160	160	-	0.0
雑 収 益	311	632	321	50.7
(2) 経 常 費 用 (b)	56,276	62,384	6,108	9.8
事 業 費	37,727	44,044	6,318	14.3
管 理 費	18,549	18,340	209	1.1
当期経常増減額 (A = a - b)	812	2,027	2,839	140.0
【 経 常 外 増 減 の 部 】				
(1) 経 常 外 費 用 (c)	-	3	3	皆減
固定資産売却・処分損	-	3	3	皆減
当期経常外増減額 (B)	-	3	3	皆増
当期一般正味財産増減額 (C = A + B)	812	2,024	2,836	140.1
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高 (D)	36,563	34,539	2,024	5.9
一般正味財産期末残高 (E = C + D)	35,751	36,563	812	2.2
正 味 財 産 期 末 残 高	35,751	36,563	812	2.2

5 監査の結果

本市からの補助金に係る出納その他の事務について監査した結果、事業は補助金の交付目的を達成し、事務処理もおおむね適正に行われているものと認められたが、事務の一部について改善を要する事例が見受けられたので、今後適正な事務処理に努められたい。

市老連では地域の高齢者に対する老人クラブの活動紹介や加入の勧誘を行うとともに、「五千人会員増強運動」を活動の主な目標としているが、クラブ数、会員数ともに減少が続いている。

今後も、健康づくり事業をはじめ、社会奉仕活動や地域支援活動など積極的に地域と関わり合いを持つ事業を推進し、高齢者の誰もが参加したくなるような魅力あるクラブ活動を進められたい。

(1) 指摘事項

適正な報告書類を提出すべきもの

市老連は、区老連等が行う事業について本市の補助金を財源として事業費を助成しているが、その実績報告（事業実施報告書、事業収支計算書）の提出について以下の事例があった。

要綱等に基づき正しく処理すべきである。

ア 本市への実績報告に必要な書類を添付すべきもの

老人クラブ健康づくり事業及び神戸市老人クラブモデル活動事業については、実施要領に基づき、本市への実績報告に区老連及び指定老人クラブからの実績報告書等を添付することとなっているが、必要な書類が全て添付されていなかった事例

イ 市老連に対し実績報告を提出すべきもの

区老人クラブ連合会事業推進事業については、区老連は実績報告を市老連に提出することとなっているが、全ての区老連から実績報告が提出されていなかった事例

ウ 実績報告書の添付書類を正しく提出させるべきもの

老人クラブ健康づくり事業について、収支計算書の提出にあたっては助成金の取扱いに関する通知文により各区老連に対して全ての領収書の添付を求めているが、長田区老連及び西区老連において領収書の合計金額が収支計算書の支出の金額より不足している事例

	収支決算書	領収書合計	差額
長田区老連	990,649 円	988,852 円	1,797 円
西区老連	1,220,623 円	1,205,397 円	15,226 円

(2) 意 見

補助金の収支決算報告について

老人クラブ連合会補助金について，市老連は事業報告の関係書類として正味財産増減計算書及びその内訳を収支決算書として提出している。

しかし，提出された決算書では，内訳の事業区分が交付決定を受けた事業区分と一致していないため，補助対象事業の執行額を確認できない状況である。

また，高齢者相互支援友愛活動事業においては，研修費，部会活動費，顕彰費の執行額が，実際に要した執行額ではなく，交付申請時の執行予定額と同額を記載している。

本市においては，個々の事業把握や分析など補助金の適正な執行を確保するため，補助対象事業に対応した事業報告書の提出を求められたい。

凡 例

- 1 文中で用いる金額は，原則として千円の位以下を省略し，万円単位で表示している。
- 2 各表中の金額は，原則として百円の位を四捨五入し，千円単位で表示している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 3 各表中の比率は，百分率で表示し，小数点以下第2位を四捨五入している。したがって合計と内訳の計が一致しない場合がある。
- 4 各表中の符号の用法は，次のとおりである。
「0」及び「0.0」----- 該当数値はあるが，単位未満のもの。
対前年度増減額及び率の場合は，零を含む。
「-」----- 該当数値なし，算出不能又は無意味のもの。
- 5 文中及び各表中でいう消費税とは「消費税」および「地方消費税」をいう。